

「平成25年の水害を振り返って」

青森県県土整備部河川砂防課長 今 孝治

平成25年も全国各地で水害・土砂災害が発生しました。青森県でも昨年9月の台風第18号により津軽地方や県南地方で甚大な浸水被害が発生しました。地球温暖化により自然災害が激化しているのではないかと不安になるような1年でした。

台風第18号は、県内の広い範囲に大雨をもたらし、しかも短時間に集中して降ったというのが特徴です。この結果、岩木川や馬淵川など多くの河川が氾濫し、また、中南地方を中心に土砂災害が多発しました。岩木川では、いくつかの観測所で観測史上最高の水位を記録したことから、近年にない豪雨だったと言えるでしょう。水害の後に「雨の降り方が変わった」などの意見を耳にしました。

青森県の水害史を振り返ると、昭和50年、52年の大水害が多くの人々の記憶に



残っており、当時担当した方からそのときの状況を聞くことがときおりあります。

さらに昔にさかのぼって、古い水害誌をひもとくと、過去の大水害の状況を知ることができます。昭和33年は水害の年でした。「青森県水害誌（昭和34年3月）」によりますと、この年は台風など

で5回にわたり水害が発生し、年間の被害状況は、床上浸水約13,000戸、床上浸水約21,000戸という甚大なものでした。もちろん、家屋被害だけでなく農業被害、公共土木施設被害も甚大で、当時の悲惨な状況が忍ばれます。

昭和42年に東奥日報社から刊行された「水を切る」は、青森県の水資源を主なテーマとした本ですが、当時の水害や治水対策の状況が詳しく書かれていて、非常に興味深く読むことができました。

この中に昭和10年8月の水害の状況が記されています。このときも県内全域で浸水被害が発生し、床上浸水約8,200戸、床下浸水約9,600戸という甚大なものでした。もちろん、当時は治水対策も十分ではなく、というよりもほとんど原始河川の状況であったと思いますが、それにしても現在このような災害が発生したらどうなるのか想像もできません。

目次:

「水害を振り返って」	P1
平成25年度活動報告 堤川を愛する会	P2
平成25年度活動報告 サークル「母なる川」	P3
平成25年度活動報告 ジョイリバーおいらせ	P4
平成25年度活動報告 親しめる川づくりサークル	P4
総会・講演会 鳴沢川源流の地	P5 〃
河川技術講演会 蕨川清掃活動	P6 〃
イワナ産卵床づくり	P7
平成26年度あおもりの川 を愛する会総会のご案内	〃
事務局より	〃

ハイライト:

- ・年間の被害状況は、床上浸水約13,000戸、床上浸水約21,000戸(P1)
- ・強制労働者たちは今も密林の奥に眠ったまま！(P3)
- ・震度5強!(P6)

このような大水害を契機としながら、着実に治水対策を進めてきた結果、本県の河川もある程度整備が進み、浸水家屋何千戸という大水害が発生することはなくなってきました。

しかし、地球温暖化の議論の中で、すでに日降水量100mm以上及び200mm以上の日数が増加しており、東北地方では100年後の年最大日降水量が約1.2倍になるとの指摘があります。また、台風については、現時点ではっきりと激化、つまり大型化・強化しているというデータはないようですが、いずれにしろ、今後激化することが予想されている水害にどう対処していくか真剣に考えていく必要があります。

さて、今回の水害では、防災・減災対策上さまざまな課題が明らかになりました。主にソフト対策ということになりますが、具体的には、防災情報の伝達方法、避難態勢のあり方、治水事業への住民の理解などです。特にダムに対しては、その役割について相当誤解があると感じました。今後、激化が予想される洪水に対応するためには、県民へのきめ細やかな情報の提供など、県民の理解を得ながら治水対策を進めていくことが必要と考えさせられた1年でした。

●堤川を愛する会 平成25年度活動報告

サークルリーダー 佐藤 信一

平成25年5月18日、前年度に引き続き青森市企業局水道部主催の「天田内地区植林事業」に参加いたしました。

この事業は、青森市民の安全・安心な水道水を安定して確保するために、水道水源とその周辺の環境保全対策の一環として平成22年度より、この場所にて実施されております。

今年度植林した樹木は4種類（カツラ、イヌエンジュ、コバハンノキ、ヒメヤシャブシ）有り、いずれの樹木も将来的には樹高10mを超える高さに成長いたします。

当日は好天に恵まれ、集合場所から現地迄約30分のハイキングコースを散策しながら、新緑に触れる事が出来ました。参加者は様々な団体（10団体）が参加しており、私共は、5名の参加ながら一人当たり2本の植林を行いました。

最後には水道局様より「青森の天然水 ブナのしずく」を頂き、全員で喉の渇きを潤しました。



一方、秋に恒例の「ハゼ釣り」は彼岸からメンバーの事前調査にも拘らず、ハゼが一向に確認できず残念ながら中止せざるを得ませんでした。サークルの基本方針の一つ「川と遊び」が今年は見送りにりましたが、平成26年度もメンバーと堤川を愛する活動を継続して参りますので、皆様方の御支援・御指導を願いたします。



● サークル「母なる川」 平成25年度活動報告
サークルリーダー 和島 隆志

サークル「母なる川」では2013年度の活動として、タイランドの「チャオプラヤー川」と「クウェー川」を視察してきました。

「チャオプラヤー川」はタイランド北部のナーン川とビン川が交差する地点から始まり、古都アユタヤ、首都バンコク市内を流れ、タイランド湾に注ぐ、長さ約370kmの河川。

バンコクを中心とする中央湿地帯はチャオプラヤー・デルタと呼ばれ、多くの運河が掘られ、世界有数の稲作地帯になっている。

2011年7月からの大洪水では北部のチェンマイ県から、チャオプラヤー川流域やその支流の流域、下流部のバンコク市内まで浸水被害が及んだことは記憶に新しい。750名以上の死者、被害総額約4,5兆円とも言われているが、幸い？にしてバンコクの上流部のチャオプラヤー川に設けられた水門の多くが壊れたことにより、広い地域の水田が水没したが、それによってバンコク市街地の被害が軽減された、とも言われている。「クウェー川」はタイランド西部、ミャンマーとの国境地帯テナセリム山地を源流とし、「クウェー川鉄橋」のあるカンチャナブリでメークローン川と合流し、タイランド湾に注ぐ、長さ約240km（源流から



合流地点まで：クウェー・ノーイ川)の河川。

また、「クウェー川」は(クワイ川)と呼ぶ方がピンとくる人が多いのかもしれない。あの映画「戦場にかける橋」で有名な「クワイ河マーチ」の(クワイ川)である。

ちなみに、「クウェー川」という呼名は「クウェー・ノーイ川」と「クウェー・ヤイ川」の二つの河川の総称であり、もともと、映画の舞台になった「クワイ川鉄橋」も架かっていたのはメークローン川であって、映画のヒットとともに、鉄橋ありきで川の呼名が替えられた。

第二次世界大戦当時、日本軍が同盟国タイからビルマへとジャングルを抜けて敷設した「泰緬鉄道」。当初5年を要する予定をわずか15カ月あまりの突貫工事で開通させたがために、多くの犠牲を生むことになり、約1万6千人の連合軍の捕虜兵士、そして、約10万人のアジアからの強制労働者が、過酷な労働条件に起因するさまざまな疫病やヘビやトラ等の猛獣に襲われ、命を落としたとのこと。現在、連合軍捕虜の死亡者は共同墓地に埋葬されているが、一方、名もなきアジアからの強制労働者たちは今も密林の奥深くに眠ったままだそうだ。

広大な区域でも一瞬にして、浸水被害を及ぼす大自然の脅威。そして、いつまでも忘れてはならない戦争の悲惨な現実。両者を実感した今回の視察でした。



●ジョイリバーおいらせ 平成25年度活動報告
サークルリーダー 中野渡 悟

ジョイリバーおいらせはほとんどのメンバーが加盟している「おいらせ知の会」と共同で活動をしています。主な活動はブナの木の新植樹と奥入瀬川の川下り、葛川の清掃活動や

いわなの産卵床づくりなどです。特に奥入瀬川の川下りはスタッフの減少や諸事情でここ4年ほど十和田湖におけるカヌー体験として実施してきました。

今年はぜひとも川下りを実施しようということで7月27日に実施することとしました。

ボートの点検や下見の川下りをへて、27日22名の参加をみて実施しました。当日は前の日に降った雨のため川の水が濁っていましたが増水もなく適切な水量となっていて快適な川下りを実施できました。前回までの川下りでは参加人数を多くしようとして実施できませんでしたが今回は少人数でも実施しようということで前回までの50人規模の川くだりから半分まで絞り込んだ結果、運営も少し楽になったように感じます。来年は浅石川で川下りを実施したいとの要望もあります。どうなる事やら…。



●親しめる川づくりサークル 平成25年度活動報告
サークルリーダー 南 直之進

2013年8月7日(水)

久しぶりに岩木川の源流大川の調査を津軽ダム工事事務所の協力により行ってきました。

やはり月日が経っていたので前に行ったルートは通れず行程も往復二時間と短めになりました。

しかし天候には恵まれ、暑さと多少の疲労はありましたが川水は冷たく気持ちよく、森林浴を満喫してきました。

来年は是非また子供たちも連れて行き、大自然に触れる機会をつくりたいと思います。



●平成25年度 総会・講演会

あおもりの川を愛する会 事務局

<平成25年5月18日（土）於：青森国際ホテル>

平成25年度総会をアラスカ会館に於いて開催しました。当日は日本河川協会の理事青山俊樹氏に来て頂きご挨拶を頂きました。

総会終了後、前西北地域県民局地域整備部長の加藤清和氏が講師となり、「インドネシア ゲンドール川踏査報告」という演題で講演をして頂きました。（参加者52名）



日本河川協会 青山俊樹理事



加藤清和氏

●平成25年度 鳴沢川源流の地

あおもりの川を愛する会 事務局

平成25年7月26日に25年度事業のひとつであります、標柱の建立を西津軽郡鯨ヶ沢町長平に流れる鳴沢川の源流の地に標柱を建立しました。同会は毎年1ヶ所、源流の地の標柱を建立しており、今年で8柱目となりました。

参加者18名は、同日、午後1時45分ころ「道の駅もりた」に集合していただき建立地まで車に相乗りし向かいました。この日の天気予報は雨が降るということでしたが、予報はハズレ良い天候に恵まれました。

多少気温は高めでしたが、スコップ、ツルハシを交替で作業し無事終了。参加された方々、暑い中の作業お疲れ様でした。

（参加者18名）

<実績：大畑川、野辺地川、蟹田川、田名部川、土淵川、天田内川、浅水川、>



●平成25年度 河川技術講演会
あおもりの川を愛する会 事務局

平成25年8月4日 五所川原夏祭り「立ちねぶた」の開幕日に、五所川原市平山市長挨拶を始めとしてオルテンシアで「河川技術講演会」が開催されました。

青森河川文化講演会は平成10年から開催され今回で16回目となります。

講演会の内容は「近年の河川における課題と解決の方向性」
講師 国土交通省東北地方整備局 工藤啓河川部長が行う予定でしたが、12時28分頃、宮城県沖で発生した震度5強の地震に伴い急遽、仙台東北地方整備局へ戻られました。その為、代行で青森河川国道事務所盛谷明弘所長に講演をして頂きました。二人目は「河川技術と河川生態の融合～十三湖の食物網とそれを支える岩木川流域の環境特性～」(講師 山梨大学大学院 医学工学総合研究部准教授 岩田智也氏)の講演が行われました。

最後は三村申吾知事にご挨拶を頂きました。



講師 森谷所長



講師 岩田准教授

●平成25年度 蔦川(つたがわ) 清掃活動
あおもりの川を愛する会 事務局

＜平成25年9月7日 (土) 於：蔦川

第11回目となります蔦川(旧十和田湖町)の清掃活動を行いました。作業前に分別袋を渡し会員、焼山町会長ほか約80名参加されごみ拾いを行いました。

川岸・道路沿いには相変わらずジュースの空き缶・タバコの吸殻等落ちていました。それでも毎年行っている継続の成果でゴミは年々少なくなってきています。

当会としまして年1回の清掃活動ですが、今後も継続し蔦川溪流に来て頂いた人に綺麗な蔦川を見て頂きたいと考えております。



記念撮影



佐々木幹夫会長



上北県民局 三橋友吉部長

●イワナ産卵床づくり

あおもりの川を愛する会 事務局

<平成25年10月7日（月）於：鳶川小溪流>

107イワナの日ということで10月7日に十和田湖近郊の鳶川の小溪流に今回で7年目になります「イワナの人工産卵床」を2ヶ所設置しました。
作ってから約1ヶ月後の11月13日に産卵を確認いたしました。（参加者15名）



確認された卵



確認作業



参加者

●平成26年度 あおもりの川を愛する会総会のご案内

あおもりの川を愛する会 事務局



平成26年度の総会を5月17日（土）に予定しております。
総会後には、講演会の開催も予定しております。詳細につきましては、後日改めてご案内いたします。ご繁忙中恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

●あおもりの川を愛する会 事務局より

あおもりの川を愛する会

「あおもりの川を愛する会」は今年で16年目を迎えました。会員数は現在196名となっています。今年度も、会員の協力のもとさまざまな活動を行なう事が出来ました。これからも会の活性化が図れるよう、頑張っていきたいと思っております。ご協力よろしくお願い申し上げます。

【事務局】 〒030-0111

TEL:017-729-0922

FAX:017-739-3561

E-mail:kon-h@nishidagumi.co.jp